

Expressワークステーションや添付のソフトウェアの特長や導入の際に知っておいていただきたい事柄に ついて説明します。また、セットアップの際の手順について順を追って説明しています。ここで説明する 内容をよく読んで、正しくセットアップしてください。

知っておきたいこと(→2ページ)	…Expressワークステーションの特長や添付(また は別売品)のソフトウェア、および各種オプショ ンとソフトウェアの組み合わせによって実現でき るシステム管理のための機能について説明してい ます。
導入のポイント(→6ページ)	…Expressワークステーションをご利用されるシス テムを構築する際に知っておいていただきたい事 柄や、参考となるアドバイスが記載されていま す。
お客様登録(→11ページ)	…お客様登録の方法について説明しています。 Express5800シリーズ製品に関するさまざまな 情報を入手できます。ぜひお客様登録をしてくだ さい。
セットアップ(→12ページ)	…Expressワークステーションをお使いになれるま でに必要な手順について順を追って説明していま す。
再セットアップ(→29ページ)	…ハードディスクからオペレーティングシステムを 起動できなくなった場合にハードディスクの内容 を出荷時の状態に戻してから再セットアップする 方法について説明しています。

知っておきたいこと

本装置について知っておいていただきたいことがらを記載しています。導入の前にご覧ください。

装置外観

導入の際に知っておいていただきたい各部の名称と場所を次に示します。増設や運用時に知っておいてい ただきたい各部の名称や機能については「ハードウェア編」をご覧ください。

<装置前面>



<装置背面>



*1 モデルによっては、サポートしていないもの、オプションのものがあります。(詳しくは装置に添付 の「構成品表/諸元表の外部インタフェース」を参照してください。)

*2 AGPボードはオプションです。

Expressワークステーションの特長

お買い求めになられたExpressワークステーションの特長を次に示します。



- Intel[®] Pentium[®] 4 Processor搭載
- 高速ディスクアクセス(IDEモデル: Ultra ATA100対応/SCSIモデル: Ultra160 SCSI 対応)



- 温度検知
- パスワード機能
- 内蔵ファン回転監視機能
- 電圧監視機能
- メモリ監視機能(1ビットエラー 訂正/2ビットエラー検出)
- パスパリティエラー検出
- メモリ縮退機能



- DUMPスイッチによるメモリダンプ機能
- オフライン保守ユーティリティ



- サウンドスピーカー内蔵
- オーディオ端子(LINE-IN/LINE-OUT/MIC/ PHONE)搭載
- El Torito Bootable CD-ROM(no emulation mode)フォーマットをサポート
- リモートパワーオン機能
- AC-LINK機能
- Ultra 160 SCSI・Ultra Wide/Narrow SCSI(内蔵 ハードディスク用/内蔵5.25インチデバイス(1 台)用/外付けデバイス用^{*})対応
 - * SCSIハードディスクを搭載したモデルでは、サ ポートできないインタフェースもあります。詳 しくは装置に添付の「構成品表/諸元表の外部イ ンタフェース」を参照してください。
- Ultra ATA100(内蔵ハードディスク用)対応
- CD-RWドライブまたはCD-ROMドライブを標準 装備



スリープ機能(S1、S3をサポート)(Windows 2000で使用 可能。オプションボードによっては機能しないものもある。 また、BIOSの設定でACPI Suspend TypeをS3にしている 場合は、65ページと103ページのヒントを参照。)



- ESMPRO/ServerAgent
- ESMPRO/ServerManager



Power On Self-Test(POST)
テスト診断(T&D)

す ぐに使える

Microsoft® Windows NT® Workstation 4.0/ Microsoft® Windows® 2000 Professionalイン ストール済み(セットアップの際に使用するオペ レーティングシステムを選択します)

便 利なセットアップユー 更 ティリティ

- EXPRESSBUILDER(システムセットアップユーティリ ティ)
- ExpressPicnic(セットアップパラメータFD作成ユー ティリティ)
- SETUP(BIOSセットアップユーティリティ)
- SCSI*Select* Utility(SCSIデバイスユーティリティ)



- PCIバス×4スロット
- AGPバス×1スロット
- 最大2GBのメモリ(RIMM×4スロット)
- USB対応(対応したドライバが必要)

前ページに示すとおりExpressワークステーションには、コンパクトなボディにさまざまな 機能が搭載されています。また、ESMPROシリーズとExpressワークステーションやオプ ションの周辺機器との組み合わせにより情報を一元管理したり、バックアップを容易にした 最適なシステムが構築できます。

本体管理

Expressワークステーションのハードウェアコンポーネントで実現している運用管理機 能/信頼性機能を提供します。また、EXPRESSBUILDERに収録されている「ESMPRO/ ServerAgent」によりシステムの状態を統合的に管理することができます。Expressワー クステーションの状態は、同じくEXPRESSBUILDERに収録されている「ESMPRO/ ServerManager」がインストールされたネットワーク上の管理コンピュータからチェッ クすることができます。

- ストレージ管理
- 内蔵のハードディスクと外付けのDATなどのバックアップ装置機能を提供します。

テープ装置へのデータのバックアップはWindows NTやWindows 2000標準のバック アップアプリケーションの他にARCserve、BackupEXEC、NetBackupなどによるバッ クアップも可能です。なお、バックアップ装置は別売のオプションです。

 ● IDEディスクミラーリングコントローラ(オプション)による内蔵ハードディスクの管理機 能を提供します。

ディスクミラーリングコントローラは、Expressワークステーションに内蔵のハードディ スク(IDE)をディスクアレイにするためのPCIボードです。ディスクアレイのRAID0、1 の各RAIDレベルをサポートしています。ディスクミラーリングコントローラの制御や各 種設定はコントローラに搭載されているコンフィグレーションユーティリティを使用し ます。詳しくは、ディスクミラーリングコントローラに添付の説明書を参照してくださ い。

運用中の管理・保守はWindowsベースのユーティリティ「FastCheck」を使用します。使用 方法については、「ソフトウェア編」またはオンラインドキュメントを参照してください。

 ● オプションのディスクアレイコントローラとオプションの増設筐体によるディスク管理 機能を提供します。

ネットワーク管理

クライアント/サーバシステムを構築した場合にネットワーク構成機器(サーバ/ワーク ステーション、ルータ、Hubなど)を監視し障害や過負荷状態を検出することができま す。なお、ルータやHubの監視にはESMPRO/Netvisorなどの関連製品が必要です。

電源管理

商用電源のトラブルは、ワークステーションを停止させる大きな原因のひとつです。 停電や瞬断に加え、電圧低下、過負荷配電、電力設備の故障などがシステムダウンの要 因となる場合があります。

無停電電源装置(UPS)は、停電や瞬断で通常使用している商用電源の電圧が低下し始め ると、自動的にパッテリから電源を供給。システムの停止を防ぎます。システム管理者 は、その間にファイルの保存など、必要な処理を行うことができます。さらに、電圧や 電流の変動を抑え、電源装置の寿命を延ばして平均故障間隔(MTBF)の延長にも貢献しま す。また、スケジュールなどによるコンピュータの自動・無人運転も実現することもで きます。

Expressワークステーションでは、NEC社製多機能UPS(I-UPSPro)とAPC社製Smart-UPSの2種類の無停電電源装置を提供しており、ESMPRO/UPSController、 PowerChute *plus*で管理・制御します。

導入のポイント

Expressワークステーションを導入するにあたって重要なポイントについて説明します。

システム構築のポイント

お使いになるシステムにExpressワークステーションを導入するにあたり、次の点について 留意してください。

まずはじめにExpressワークステーション、および添付品がすべてそろっていることを確認 してください(添付の構成品表を参照してください)。万一、足りないものや破損しているも のがあったときは保守員に連絡してください。また、システムを構築するために必要となる 機器についても確認しましょう。

日常での運用において、Expressワークステーションの状態を管理・監視できるようなシス テムを構築しておくことが望まれます。

添付のCD-ROMFEXPRESSBUILDER[™]」には、Expressワークステーション、および Express5800製品の状態を監視することができるサーバ/ワークステーション管理アプリ ケーションFESMPRO®」が収録されています。ESMPROは、障害が起きたときに管理PCへ 障害を通知したり、その障害内容を採取したりすることができます。

ESMPROやその他の管理アプリケーション、ハードウェアの持つ機能などを効率よく使用 してシステム管理やセキュリティの強化を図ってください。

なお、Expressワークステーションに障害が発生した際に、NECフィールディング(株)がア ラーム通報を受信して保守を行う「エクスプレス通報サービス」を利用すれば、低コストで Express5800シリーズの障害監視・保守を行うことができます。

「エクスプレス通報サービス」をご利用することもご検討ください。



電源を入れる前に

Expressワークステーションをセットアップし、システムを構築する場合は、次の順序で行います。

① ハードウェアのセットアップ

Expressワークステーションを箱から取り出し、最適な場所に設置後、キーボード、マウス、ディスプレイ装置のケーブル、電源コードの順でExpressワークステーション背面のコネクタに接続します。

モデルによっては、グラフィックスアクセラレータボードが別売のものがあります。ボード を取り付けてからケーブルを接続してください。

★● オペレーティングシステムのセットアップが完了するまでは、グラフィックスアクセラレー タボードを除く内蔵オプションの取り付けや周辺機器の接続をしないでください。これらの 作業は、オペレーティングシステムのセットアップが完了してから行います。

② オペレーティングシステムのセットアップ

購入されたExpressワークステーションにはWindows 2000 Professional 日本語版と Windows NT 4.0 Workstation 日本語版がすでにインストールされています。そのまま電 源をONにすればユーザー固有の情報など必要な設定を入力するだけで使用できるようになっ ています(使用するオペレーティングシステムは初めて電源をONにした後に選択します)。

詳しい手順は13ページで説明しています。



オペレーティングシステムの選択で、選択しなかった方のオペレーティングシステムを
 Expressワークステーションにインストールするには、別途オペレーティングシステムを
 購入しなければいけません。

[Windows 2000 Professional、またはWindows NT 4.0 Workstationのシステム を修復する場合は...]

システムの修復をするときは、以下の2つの方法があります。

システムの修復

システムの修復とは、何らかの原因でOSを動作させるために必要なファイルが破損した 場合に、バックアップCD-ROMを使用してシステムを起動できる状態にするものです。

破損したファイルが修復対象となっている場合は、各種ユーティリティやユーザー情報 なども保存された状態でシステムを起動できるようにすることができますが、システム の修復を行っても、OSが完全な状態で起動されるとは限りません。その場合は次に説明 する「再セットアップ」でシステムを復旧させてください。

システム修復の方法については「運用・保守編」で説明しています。

再セットアップ

システムの破損などの原因でOSを起動できなくなった場合などに、添付のバックアップ CD-ROMを使って、Expressワークステーションを再セットアップしてください。

バックアップCD-ROMを用いた再セットアップ方法については29ページで説明しています。

7

導入編

③ 内蔵デバイスの取り付け/周辺機器の接続

別途購入されたメモリやハードディスクなどの内蔵デバイスを取り付け、プリンタなどの周 辺機器を接続します。接続する周辺機器用のデバイスドライバをインストールする場合は、 周辺機器に添付の説明書を参照してインストールしてください。

④ 障害処理のためのセットアップ

障害が起きた時に障害からより早く確実に復旧できるように、メモリダンプの設定、ワトソン博士の設定を行います。

NECでは、ESMPROの他にも「エクスプレス通報サービス」と呼ばれるExpress5800製品の 状態監視用サービスを用意しています。Express5800製品に障害が起きたときに自動的に保 守サービス会社に通報され、保守サービス会社から保守情報の通知、または保守員の派遣な どのサービスを受けることができます。エクスプレス通報サービスをご契約することをお勧 めします。

⑤ 管理ユーティリティのインストール

システムで検出した障害情報の管理を行うためには、ESMPRO/ServerAgentをインストー ルします(ESMPRO/ServerAgentは「EXPRESSBUILDER」CD-ROMからインストールする ことができます)。また、ネットワーク上の管理PCからExpress5800製品の運用状態や障害 情報を確認する場合は管理PCにESMPRO/ServerManagerをインストールしてください(イ ンストールについては「ソフトウェア編」で説明しています)。ESMPRO/ServerManagerは Expressワークステーションにインストールして使用することもできます。



添付のCD-ROMには、「ESMPRO/ServerAgent」と「ESMPRO/ServerManager」の2つのア プリケーションが含まれています。ESMPROには、その他にもさまざまな用途に応じたア プリケーションが用意されています。詳しくは保守員にお問い合わせください。

⑥ システム情報のバックアップ

ハードウェアとソフトウェアのすべてのセットアップを完了したら、添付のCD-ROM 「EXPRESSBUILDER」のユーティリティを使用してExpressワークステーションのシステム 情報のバックアップをとります。

装置の故障による部品交換や修理の後にバックアップしていたシステム情報をリストアする ことで故障前と同じ状態でExpressワークステーションを使用することができます。

購入時のハードディスクの状態と保守用パーティション

Expressワークステーションに標準装備のハード ディスクにはMicrosoft Windows 2000 Professional/Microsoft Windows NT Workstation 4.0と保守用ユーティリティがあら かじめインストールされています。

オペレーティングシステムのパーティションサイ ズはオペレーティングシステムのセットアップの 時に設定できます。

また、約16MBほどの「保守用パーティション」が もうけられています。

「保守用パーティション」とは、Expressワークス テーション特有の構成情報や専用のユーティリ ティを保存するために使用されるパーティション で、16MB程度の領域を内蔵ハードディスク上へ 確保します(保守用パーティションは、1度作成さ れると以降は作成されません)。 本装置の構成情報や専用のユーティリ ティを使用するために必要な情報が保存 される。(このパーティションを削除し ないでください)



システムエリア Microsoft Windows 2000 Professional (ハードディスクの空き容量分まで拡張可 能)/Microsoft Windows NT Workstation 4.0(最大4GB)

- オペレーティングシステムはセットアップの際にどちらを使用するか選択します。セットアップの完了後は、選択したオペレーティングシステムで起動します。オペレーティングシステムの選択で、選択しなかった方のオペレーティングシステムをExpressワークステーションにインストールするには、別途オペレーティングシステムを購入しなければいけません。
 - 保守用パーティションは、その存在がOS上から見えることがありますが、構成情報を 保持するためにもこのパーティションを削除しないでください。

Expressワークステーションのセットアップの際に保守用パーティションへ自動的にインス トールされるユーティリティは、「システム診断ユーティリティ」と「オフライン保守ユーティ リティ」です。

メモリの縮退機能

POST(Power On Self-Test:電源ON後の自動診断プログラム)でメモリ(RIMM)の故障を検 出すると自動的に故障したRIMMを切離して運用する機能です(故障したRIMMは早めに交換 することをお勧めします)。

縮退機能は、RIMMを増設し、2組以上のRIMMを搭載してるシステムでの運用中に、いずれ か1組のRIMMが正常に動作している場合に有効です(本装置では、2枚1組単位でメモリを増 設します)。RIMMが故障するとメモリ容量が少なくなり、システムの動作速度が遅くなった り、アプリケーションを動作させることができなくなったりすることがあります。

RIMMの故障は、POSTを実行している時に表示される画面や、BIOSセットアップユーティリティ、ESMPRO/ServerManagerをインストールしている管理PC上で確認することができます。

障害の発生したRIMMを交換した場合は、BIOSセットアップユーティリティを起動し、 「Advanced」メニューの「Memory Reconfiguration」で[Clear RIMM Errors]を選択しま す。

ネットワーク構築のポイント

ネットワークに接続する場合は、コンピュータ名やTCP/IPなどの設定が必要です。あらか じめ確認しておくことをお勧めします(後から変更することもできます)。 ネットワークを経由して、他のシステムからの指示によりExpressワークステーションの電 源を投入(リモートパワーオン)する場合は、BIOSセットアップユーティリティの「System Hardware」メニューの「Wake On Event」で[Wake On LAN]を[Enabled]に設定します。

UPS接続時のポイント

Expressワークステーションの電源コードを無停電電源装置(UPS)に接続している場合、 UPSからExpressワークステーションの電源を制御できる電源連動(AC-LINK)機能を使用す ることができます。

このAC-LINK機能を使用してExpressワークステーションの電源ON/OFFを行う場合は、 BIOSセットアップユーティリティの「System Hardware」メニューの「AC-LINK」を[Power On]に設定します。また、UPSを正しく動作させるためにお使いになるUPSに合ったソフト ウェアの設定が必要です。ソフトウェア編を参照して正しく設定してください。

ストレージ機能構築のポイント

本装置では、別売品のSCSIコントローラボードや内蔵SCSIケーブルK410-49(01)(標準搭載のモデルもある)を搭載することにより外付けのバックアップ装置を接続することができます。バックアップ装置とバックアップツールを使って定期的に大切なデータのバックアップをとることをお勧めします。

主なバックアップツールは次のとおりです。

- Windows2000バックアップツール(Windows 2000標準)
- NTBackup(Windows NT標準)
- ARCserve(コンピュータ・アソシエイツ社)
- BackupExec(ベリタス社)
- NetBackup(ベリタス社)

DAT装置などのテープデバイスは、ヘッドの汚れによりデータの読み書きが正常に行われず、バックアップ/リストア中にエラーが発生する場合があります。クリーニングテープにより、定期的にヘッドを清掃するよう心がけてください。

お客様登録

NECでは、製品ご購入のお客様に「Club Express会員」への登録をご案内しております。添付の「お客様登録申込書」に必要事項をご記入の上、エクスプレス受付センターまでご返送いただくか、Club Expressの インターネットホームページ

http://club.express.nec.co.jp/

にてご登録ください。



「Club Express会員」のみなさまには、ご希望によりExpress5800シリーズをご利用になる上で役立つ情報サービスを無料で提供させていただきます。サービスの詳細はClub Expressのインターネットホームページにて紹介しております。ぜひ、ご覧ください。

セットアップ

箱を開けてからお使いになるまでの手順について、順を追って説明します。再セットアップの際は「再セットアップ」を参照してください。



次の順序でハードウェアをセットアップします。

グラフィックスアクセラレータボードが別売のモデルの場合は、別途購入したオプションのグラフィックスアクセラレータボードを取り付ける。(→81ページ)



その他の内蔵デバイスはオペレーティングシステムのセットアップを完了してから取り付けて ください。

- 2. Expressワークステーションを使用するのに最も適した場所(環境)に設置する。(→57ページ)
- ディスプレイ装置やマウス、キーボードのケーブルをExpressワークステーションに接続する。 (→59ページ)



プリンタなどの周辺機器はオペレーティングシステムのセットアップを完了してから接続して ください。

- 4. 添付の電源コードをExpressワークステーションと電源コンセントに接続する。(→59ページ)
- 5. 装置の構成やシステムの用途に応じてBIOSの設定を変更する。

95ページに示す設定例を参考にしてください。

■ **チェック** ■ BIOSのパラメータで時刻や日付の設定と確認をしてください。

2 オペレーティングシステムのセットアップ

購入されたExpressワークステーションのハードディスクは、Windows 2000 Professional とWindows NT 4.0 Workstationがお客様の個別情報を設定する前の状態でインストール 済みです。

始めて電源をONにするときは、電源ON後に使用するオペレーティングシステムを選択して、 セットアップを続けます。再セットアップの際は、装置に添付の「パックアップCD-ROM」を 使用してオペレーティングシステムのインストールからセットアップまでを行います。

セットアップの手順

初めて電源をONにしてセットアップするときは、次の手順でExpressワークステーションを 起動して、セットアップを始めます。



 本装置に添付されているService Pack以降のService Packを使用する場合は、下 記サイトより詳細情報をお確かめの上、ご使用ください。

Express5800[58番街]: http://express5800.com/

 CD-ROMおよびフロッピーディスクがそれぞれのドライブにセットされていないことを確認して からExpressワークステーションの電源をONにする。

スタート画面が表示されます。注意事項をよく読んでください。

2. <Enter>キーを押す。

オペレーティングシステムを選択する画 面が表示されます。 NEC Express5809 シリーズをご購入いただきありがとうございます。 本装置には、以下のオペレーティングシステムがプレインストールされています。

 Windows/R2000 Professional
 Windows/R2000 Professional
 Windows/R1000 Professional
 Very Professional
 Ver

- ●セットアップを開始する場合は、[Enter]キーを押してください。
 ●セットアップを開始しない場合は、[Ese]キーを押してください。
- カーソルキー(↑・↓)で使用するオペレーティングシステムを選択して、
 <Enter>キーを押す。

ここで選択しなかったオペレーティン グシステムは自動的に削除されます。 選択しなかったオペレーティングシス テムを本装置で使用するためには、別 途購入してください。 オペレーティングシステムの選択 本装置にセットアップするオペレーティングシステムを選択してください。 上下のカーソル移動キー(↑・↓)で選択後。[Enter]キーで決定します。 セットアップを1明考るとさは、[Esc]キーを出してください。 Windows XID 2000 Professional Windows XID SuperVisional A

<<注意>> ここで選択されなかったオペレーティングシステムは自動的に削除されます。 選択されなかったオペレーティングシステムをセットアップするためには、 別途、製品版をご購入いただく必要があります。

選択したオペレーティングシステムのセットアップが始まります。再起動後、お客様固有のセットアップをするための画面が表示されます。表示されたメッセージに従ってセットアップを進め てください。 導入編

以下のソフトウェアも併せてインストールされます。ソフトウェアのセットアップについては、 「ソフトウェア編」または添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」に格納されているオンラインド キュメントを参照してください。

- ESMPRO/ServerAgent
- エクスプレス通報サービス
- Global Array Manager
- Array Recovery Tool

FastCheck

- 自動クリーンアップツール
- 各種デバイスドライバをインストールする。
 この後の説明を参照してください。
- 障害処理のためのセットアップをする。
 22ページを参照してください。
- 6. 28ページを参照してシステム情報のバックアップをとる。

以上で初めてのセットアップは終了です。

デバイスドライバ(本体標準装備)のセットアップ

オプションのデバイスのドライバのインストールやセットアップについてはオプションに添 付の説明書を参照してください。

Windows 2000 Professional

ディスクドライバ

標準装備のディスクドライバは、購入時にインストール済みです(システムの修復や再 セットアップの際にも自動的にインストールされます)。

PRO Set II

PROSet IIは、ネットワークドライバに含まれるネットワーク機能確認ユーティリティです。PROSet IIを使用することにより、以下のことが行えます。

- アダプタ詳細情報の確認
- ー ループバックテスト、パケット送信テストなどの診断
- Teamingの設定

ネットワークアダプタ複数枚をチームとして構成することで、サーバに耐障害性に優れた環境を提供し、サーバースイッチ間のスループットを向上させることができます。このような機能を利用する場合にPROSet I が必要になります。

Proset I をインストールする場合は、以下の手順に従ってください。

- 1. CD-ROMFEXPRESSBUILDERJ&CD-ROM/RWF>イブにセットする。
- スタートメニューの[プログラム]、[アクセサリ]の順にポイントし、[エクスプローラ]をク リックする。
- 「<CD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥W2K¥RS512C¥HD1¥PROSet2」ディレクトリ内の「SETUP.EXE」アイコンをダブルクリックする。

[Intel(R) PROSet I Setup]が起動します。

4. [Welcome]ウィンドウの[Next]ボタンをクリックする。

もし、「デジタル署名が見つかりませんでした」のダイアログメッセージが表示された場合は、 「はい」を選択してください。 [Intel(R) PROSet I Setup]に[Setup Complete]ウィンドウが表示されます。

5. [Finish]ボタンをクリックする。

[Intel(R) PROSet I Setup]が終了します。

6. システムを再起動する。

導入編

• ネットワークドライバ

標準装備のネットワークドライバは、自動的にインストールされますが、転送速度と Duplexモードの設定が必要です(システムの再セットアップの際にも自動的にインストー ルされます)。



Windows 2000起動後、ネットワークドライバを修正/追加したい場合は、以下を参照してください。

Microsoft管理コンソールのヘルプ →「デバイスマネージャ」→「デバイスドライバを 更新または表示する」→「デバイスドライバを更新または変更するには」

- PROSet I をインストールしてない場合
- 1. スタートメニューから[設定]をポイントし、[ネットワークとダイヤルアップ接続]をクリックする。

[ネットワークとダイヤルアップ接続]ダイアログボックスが表示されます。

- [ローカルエリア接続]アイコンを右クリックし、ポップアップメニューから[プロパティ]をクリックする。
 「ローカルエリア接続のプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
- [構成]ボタンをクリックする。
 ネットワークアダプタのプロパティダイアログボックスが表示されます。
- **4.** [詳細設定]タブをクリックし、[Link Speed & Duplex]をHUBの設定値と同じ値に設定する。
- 5. ネットワークアダプタのプロパティダイアログボックスの[OK]ボタンをクリックする。
- 6. [ローカルエリア接続のプロパティ]ダイアログボックスの[OK]ボタンをクリックする。
- PROSet I をインストール済みの場合
- [コントロールパネル]ウィンドウで、[Intel(R) PROSet II]アイコンをダブルクリックする。 [Intel(R) PROSet I]ダイアログボックスが表示されます。
- 2. リスト中の「Intel 8255x-based PCI Ethernet Adapter (10/100)」にマウスカーソルを合わ セクリックする。
- 3. [Advanced]タブをクリックし、[Link Speed & Duplex]をHUBの設定値と同じ値に設定し、 [OK]ボタンをクリックする。

また、必要に応じてプロトコルやサービスの追加/削除をしてください。[ネットワーク とダイヤルアップ接続]からローカルエリア接続のプロパティダイアログボックスを表示 させて行います。

グラフィックスアクセラレータドライバ(ディスプレイドライバ)

Expressワークステーションまたはグラフィックスアクセラレータボードに添付の説明 書とディスク(フロッピーディスクかCD-ROM)を使用してドライバをインストール後、 必要に応じて表示の設定等を行ってください。

• サウンドドライバ

サウンドドライバは、購入時にインストール済みです。システムの修復や再セットアップの際は、システムのアップデートを行うと自動的にインストールされます。

SCSIドライバ(N8103-55)

Windows 2000をインストールした後、N8103-55 SCSIコントローラを取り付ける場合は、以下の手順に従ってN8103-55 SCSIドライバをインストールしてください。

なお、本ドライバをインストールするには、サポートディスク「Windows2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」が必要です。サポートディスクは添付のCD-ROM 「EXPRESSBUILDER」から作成します。作成方法にはEXPRESSBUILDERからExpress ワークステーションを起動して表示されるメニューで作成する方法と、Windows 95/ 98/2000またはWindows NT 4.0で動作しているコンピュータにEXPRESSBUILDERを セットすると表示されるメニューから作成する2つの方法があります。137ページ以降の 説明を参照して事前に作成してください。

- N8103-55 SCSIコントローラを取り付けて、システムを立ち上げる。 [新しいハードウェアウィザード]が起動されます。
- 2. [次へ]ボタンをクリックする。
- 「このデバイスの既知のドライバを表示して、その一覧から選択する」を選択し、
 [次へ]ボタンをクリックする。
- 「SCSIとRAIDコントローラ」を選択して、[次へ]ボタンをクリックする。
- 「Windows 2000 OEM DISK for EXPRESSBUILDER」をフロッピーディ スクドライブにセットし、[ディスク使 用]ボタンをクリックする。
- 6. 「A:¥」と入力し[OK]ボタンをクリックする。
- 製造元「ConnectCom Solutions,Inc」、 SCSIアダプタ「Win2K AdvanSys U2W/ U3W SCSI Adapter」を選択し、[次へ] ボタンをクリックする。
- 8. デバイスドライバのインストール開始画 面で[次へ]ボタンをクリックする。

₩O IEE

「デジタル署名が見つかりませんでした。」というメッセージが表示され、 「インストールを続行しますか?」と確認されることがあります。[はい]を選択してください。





ドライバのコピーが開始され、終了後、「完了]を選択すると、インストールは終了します。

- 9. システムを再起動する。
- 10. 再起動後、システムのアップデートを行う。

Windows NT4.0 Workstation

オプションのデバイスのドライバのインストールやセットアップについてはオプションに添 付の説明書を参照してください。

• ディスクドライバ

標準装備のディスクドライバは、購入時にインストール済みです(再セットアップの際に も自動的にインストールされます)。

• ネットワークドライバ

標準装備のネットワークドライバは、自動的にインストールされますが、転送速度と Duplexモードの設定が必要です(システムの再セットアップの際にも自動的にインストー ルされます)。

- スタートメニューから[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックする。
 [コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。
- [ネットワーク]アイコンをダブルクリックする。
 [ネットワーク]ダイアログボックスが表示されます。
- [アダプタ]タブをクリックし、ネットワークドライバを選択後、[プロパティ]ボタンをクリックする。
 ネットワークアダプタの[Intel(R)PROSet II]ダイアログボックスが表示されます。
- 4. [Advanced]タブをクリックし、[Link Speed & Duplex]をHUBの設定値と同じ値に設定する。
- 5. ネットワークアダプタの[Intel(R)PROSet II]ダイアログボックスの[OK]ボタンをクリックする。
- 6. [ネットワーク]ダイアログボックスの[OK]ボタンをクリックする。

また、必要に応じてプロトコルやサービスの追加/削除をしてください。[ネット ワーク]ダイアログボックスから[プロトコル]タブをクリックしてプロトコルを設定する 画面を表示させて行います。

グラフィックスアクセラレータドライバ(ディスプレイドライバ)

Expressワークステーションまたはグラフィックスアクセラレータボードに添付の説明 書とディスク(フロッピーディスクかCD-ROM)を使用してドライバをインストール後、 必要に応じて表示の設定等を行ってください。

サウンドドライバ

サウンドドライバは以下の手順でインストールします。

- 「YAMAHA AC-XG Driver」のインストール
 - 1. CD-ROM[EXPRESSBUILDER]をCD-ROM/RWドライブにセットする。
 - スタートメニューから[ファイル名を指定して実行]をクリックする。
 [ファイル名を指定して実行]ダイアログボックスが表示されます。
 - [ファイル名を指定して実行]ダイアログボックスの[参照]ボタンをクリックする。
 [ファイルの参照]ダイアログボックスが表示されます。

 【ファイルの参照】ダイアログボックスの[ファイル名]に「CD-ROMドライブ名: ¥WINNT¥SOUND¥YAMAHA¥ANI1019¥setup.exe」と指定し、[OK]ボタンをクリック する。

インストールウィザードが開始し、[ようこそ]ダイアログボックスが表示されます。

5. [次へ]ボタンをクリックする。

[YAMAHA AC-XG Audio Driver]ダイアログボックスが表示されます。

6. [OK]ボタンをクリックする。

[Install Shield ウィザード]ウィンドウが表示されます。

- [はい、今すぐコンピュータを再起動します。]のラジオボタンが選択されていることを確認し、[完了]ボタンをクリックする。
 システムが再起動されます。
- 「YAMAHA SoftSynthesizer S-YXG50」のインストール
 - 1. CD-ROM[EXPRESSBUILDER]をCD-ROM/RWドライブにセットする。
 - スタートメニューから[ファイル名を指定して実行]をクリックする。
 [ファイル名を指定して実行]ダイアログボックスが表示されます。
 - [ファイル名を指定して実行]ダイアログボックスの[参照]ボタンをクリックする。
 [ファイルの参照]ダイアログボックスが表示されます。
 - 4. [ファイルの参照]ダイアログボックスの[ファイル名]に「CD-ROMドライブ名: ¥WINNT¥SOUND¥YAMAHA¥Syxg50nt¥setup.exe」と指定し、[OK]ボタンをクリッ クする。

[YAMAHA Softsynthesizer S-YXG50 Ver,3.01.23JP セットアップ]のインストール ウィザードが開始し、[ようこそ]ダイアログボックスが表示されます。

5. [次へ]ボタンをクリックする。

[インストール先の選択]ダイアログボックスが表示されます。

6. [次へ]ボタンをクリックする。

[プログラムフォルダの選択]ダイアログボックスが表示されます。

- [次へ]ボタンをクリックする。
 [質問]ダイアログボックスが表示されます。
- [はい]ボタンをクリックする。
 [製品ライセンス契約]ダイアログボックスが表示されます。
- [はい]ボタンをクリックする。
 [Windowsの再起動]ダイアログボックスが表示されます。
- 10. [はい、直ちにコンピュータを再起動します。]のラジオボタンが選択されていることを確認し、[OK]ボタンをクリックする。

システムが再起動されます。

SCSIドライバ(N8103-55)

Windows NT 4.0をインストールした後、N8103-55 SCSIコントローラを取り付ける 場合は、以下の手順に従ってN8103-55 SCSIドライバをインストールしてください。

なお、本ドライバをインストールするには、サポートディスク「Windows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」が必要です。サポートディスクは添付のCD-ROM 「EXPRESSBUILDER」から作成します。作成方法にはEXPRESSBUILDERからExpress ワークステーションを起動して表示されるメニューで作成する方法と、Windows 95/ 98/2000またはWindows NT 4.0で動作しているコンピュータにEXPRESSBUILDERを セットすると表示されるメニューから作成する2つの方法があります。137ページからの 説明を参照して事前に作成してください。

- 1. N8103-55 SCSIコントローラを取り付けて、システムを立ち上げる。
- スタートメニューから[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックする。
 [コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。
- 3. [SCSIアダプタ]アイコンをダブルクリックする。
- 4. [ドライバ]タブを選択して、[追加]ボタンをクリックする。
- 5. 「Windows NT 4.0 OEM DISK for EXPRESSBUILDER」をフロッピーディスクドライブに セットし、[ディスク使用]ボタンをクリックする。
- 6. 「A:¥」と入力し[OK]ボタンをクリックする。
- 製造元「ConnectCom Solutions,Inc」、 SCSIアダプタ「NT4 AdvanSys UW/ U2W/U3W SCSI Adapter」を選択し、 [OK]ボタンをクリックする。
- 8. システムを再起動する。
- 9. 再起動後、システムのアップデートを行う。



システムのアップデート ~Service Packの適用~

システムのアップデートは、Expressワークステーション購入時には自動で適用されていま すが、次のような場合は、必ずシステムのアップデートを行ってください。

- システムの修復を行った場合
- システムの構成を変更した場合

管理者権限のあるアカウント (Administratorなど)で、システムに ログインした後、CD-ROM [EXPRESSBUILDER]をExpressワークス テーションのCD-ROM/RWドライブに セットしてください。

表示された画面「マスターコントロールメ ニュー」の[ソフトウェアのセットアップ] を左クリックし、メニューから[システム のアップデート]をクリックすると起動し ます。以降は画面に表示されるメッセージ に従って処理を進め、Service Packを適用 してください。



3 障害処理のためのセットアップ

障害が起きたとき、より早く、確実に障害から復旧できるように、あらかじめ次のような セットアップをしておいてください。

メモリダンプ(デバッグ情報)の設定 ~Windows 2000/Windows NT 4.0共通~

Expressワークステーション内のメモリダンプ(デバッグ情報)を採取するための設定です。

┳━〇 メモリダンプの注意

重要

- メモリダンプの設定や採取は保守員が行います。お客様が行うことはできません。
- ここで示す設定後、障害が発生した時にメモリダンプを保存するために再起動すると、 起動時に仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合があります が、そのまま起動してください。起動し直すと、メモリダンプを正しく保存できない場 合があります。

Windows 2000 Professionalの場合

次の手順に従って設定します。

- スタートメニューの[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックする。
 [コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。
- [システム]アイコンをダブルクリックする。
 [システムのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
- 3. [詳細]タブをクリックする。
- 4. [起動/回復]ボタンをクリックする。

システムのプロパティ ?! 🗵
全般 ネットワーク ID ハードウェア ユーザー ブロフール 単細
パフォーマンス
デージンのテビのたいがを留きしよう。 バフォーマンスオプションビン
- 環境変数 環境変数は、特定の種類の情報の検索先を指定します。
起動/回復 記動/回復オプションは、起動方法とコンピュータが停止するエラーが発生 した場合の処理方法を指定します。
起動/回復⑤

5. テキストボックスにデバッグ情報を書き 込む場所を入力する。

<Cドライブに「MEMORY.DMP」という ファイル名で書き込む場合>

C:¥MEMORY.DMP

₩O III

- デバッグ情報の書き込みは[カーネ ルメモリダンプ]を指定することを 推奨します。
- Expressワークステーションに搭 載しているメモリサイズ+12MB 以上の空き容量のあるドライブを 指定してください。
- メモリ増設を行った場合は、採取 されるデバッグ情報(メモリダンプ) のサイズが変わります。デバッグ 情報(メモリダンプ)書き込み先の空 き容量の確認を行ってください。
- 6. [パフォーマンスオプション]ボタンを クリックする。

起動/回復	? ×
「起動システム	
既定のオペレーティング システム(S):	
"Microsoft Windows 2000 Professional" /fastdetect	-
▼ オペレーティング システムの一覧を表示する(D) 30 当 秒間	
システム エラー	
☑ システム ログにイベントを書き込む(L)	
✓ 管理警告を送信する(E)	
▼ 自動的に再起動する(B)	
ーデバッグ情報の書き込み	
カーネル メモリ ダンプ	
BN -9 - 70.	
%SystemRoot%#MEMORY.DMP	
X MIAMINIMET BC AMIN	
OK キャンセル	

全般 ネットワーク ID ハードウェア ユーザー プロファイル IFF細
パフォーマンス パフォーマンスオブションは、コンピュータの処理速度に影響するアプリケー ションのメモリの使い方を管理します。
「パフォーマンス オブション(ビ)」
- 環境変数 環境変数は、特定の種類の情報の検索先を指定します。
環境変数(<u>E</u>)
記動/回復 記動/回復オウションは、記動方法とコンピュータが停止するエラーが発生 した場合の処理方法を指定します。
起動/回復(S)
OK 道用(<u>A</u>)

7. [仮想メモリ]ボックスの[変更]ボタンを クリックする。

パフォーマンス オプション	? ×
アブリケーションの応答 パフォーマンスの最適化:	
 アプリケーション(<u>A</u>) バックグラウンド 	サービス(<u>S</u>)
仮想メモリー	
ドライブすべてのページング ファイル サイズの合計:	1 ⁻ ///B 変更[[<u>]</u>]
ОК	チャンセル

8. [選択したドライブのページングファイルサイズ]ボックスの[初期サイズ]を[推奨]値以上に変更 し、[設定]ボタンをクリックする。

ページングファイルの[初期サイズ]は、搭載メモリサイズの約1.5倍に設定してください。

ਰਾ

- 必ずOSパーティションに上記のサイズで作成してください。STOPエラーが発生したとき にデバッグ情報(メモリダンプ)を採取するために必要です。ページングファイルの[初期サ イズ]を[推奨]値未満に設定すると正確なデバッグ情報(メモリダンプ)を採取できない場合 があります。
- メモリを増設した際は、必ずメモリサイズに合わせてページングファイルの再設定を行って ください。
- 再セットアップを行った場合は、ページングファイルがOSパーティションに作成されることがあります。ページングファイルを作成するドライブを任意に変更してください。
- 障害発生時に備えて、事前にダンプスイッチを押し、正常にダンプが採取できることの確認 を行うことをお勧めします。
- 9. [OK]ボタンをクリックする。

設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに 従って再起動してください。

Windows NT 4.0 Workstationの場合

次の手順に従って設定します。

- スタートメニューの[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックする。
 [コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。
- [システム]アイコンをダブルクリックする。
 [システムのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
- 3. [起動/シャットダウン]タブをクリックする。
- システムログにイベントを書き込む]を チェックする。
- 5. [デバッグ情報を次へ書き込む]をチェッ クする。
- 6. テキストボックスにデバッグ情報を書き 込む場所を入力する。

<Dドライブに「MEMORY.DMP」という ファイル名で書き込む場合>

D:¥MEMORY.DMP

∎ਾ0≣ੁੁ

- Expressワークステーションに搭載しているメモリ容量+12MB以上の空き容量のあるド ライブを指定してください。
- メモリ増設を行った場合は、採取されるデバッグ情報(メモリダンプ)のサイズが変わります。デバッグ情報(メモリダンプ)書き込み先の空き容量の確認を行ってください。



- 7. [パフォーマンス]タブをクリックする。
- 8. [変更]ボタンをクリックする。

[仮想メモリ]ダイアログボックスが表示されます。

9. [選択したドライブのページングファイルサイズ]ボックスの[初期サイズ]を[推奨]値以上に変更 し、[設定]ボタンをクリックする。

ページングファイルの[初期サイズ]は、「搭載メモリサイズ]+12MB以上を目安に設定してください。

∎ਾ0≣ੂ

- 必ずOSパーティションに上記のサイズで作成してください。STOPエラーが発生したとき にデバッグ情報(メモリダンプ)を採取するために必要です。ページングファイルの[初期サ イズ]を[推奨]値未満に設定すると正確なデバッグ情報(メモリダンプ)を採取できません。
- メモリを増設した際は、必ずメモリサイズに合わせてページングファイルの再設定を行って ください。
- 再セットアップを行った場合は、ページングファイルがOSパーティションに作成されることがあります。ページングファイルを作成するドライブを任意に変更してください。
- 障害発生時に備えて、事前にダンプスイッチを押下し、正常にダンプが採取できることの 確認を行うことをお勧めします。
- 10. [OK]ボタンをクリックする。

設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに 従って再起動してください。

ਰਾ

設定後、障害が発生してシステムが再起動されたとき、仮想メモリが不足していることを示す メッセージが表示されることがありますが、そのままシステムを起動してください。

ワトソン博士の設定 ~Windows 2000/Windows NT 4.0共通~

ワトソン博士はアプリケーションエラー用のデバッガです。アプリケーションエラーを検出 するとExpressワークステーションを診断し、診断情報(ログ)を記録します。診断情報を採 取できるよう次の手順に従って設定してください。



ワトソン博士の設定は、Expressワークステーション購入時、および再セットアップ時に自 動的に設定されています。

- 1. スタートメニューの[ファイル名を指定して実行]をクリックする。
- 2. [名前] ボックスに [drwtsn32.exe] と入力 </br> し、[OK]ボタンをクリックする。

ワトソン博十のダイアログボックスが表 示されます。

×

3. [ログファイルパス]ボックスに診断情報 の保存先を指定する。

「DRWTSN32.LOG」というファイル名で 保存されます。



ネットワークパスは指定できません。 ローカルコンピュータ上のパスを指定 してください。

4. [クラッシュダンプ]ボックスにクラッ シュダンプファイルの保存先を指定す る。

「クラッシュダンプファイル | は Windows Debuggerで読むことができ るバイナリファイルです。

<Windows 2000での表示例>

Windows 2000 ワト ログ ファイノ パス(L): クラッシュ ミップ(P):	・ソン博士 s¥All Users ⁱ C:¥Documen	∉Documents [‡] ts and Settir	¥DrWatson ngs¥All Us	? 参照(B) 参照(Q)	
WAVE ファイ 1999 インストラクションの数・ 保存するエラー数(N):	ı D:	10		<u> </u>	
 ▼ グンブ シンボバ ▼ すべてのスレッ ▼ 既存のログ フ > メッセージ ボッ ■ 音による通知の ▼ クラッシュ ダンブ 	レテーブル(D) ドコンテキストを ァイルに追加(E クスによる通知 (S) グファイルの代わ	ンプ(<u>A</u>) , .①			
アブリケーション エラー	(<u>R</u>)	表示		<i>ካ</i> ሀፖ(<u>O</u>)	
OK	÷+	ンセル	ヘルプ(出)	

- 5. [オプション]ボックスにある次のチェックボックスをオンにする。
 - □ ダンプシンボルテーブル
 - □ すべてのスレッドコンテキストをダンプ
 - □ 既存のログファイルに追加
 - □ クラッシュダンプファイルの作成
- 6. [OK]ボタンをクリックする。

システム修復情報の更新 ~Windows NT 4.0のみ~

オペレーティングシステムのデータが破損した場合にそなえて、システムの修復が行えるようにするためにシステム構成を変更したら、必ず「システムのアップデート」とともに「システム修復情報の更新」をしてください。システム修復情報にはコンフィグレーションファイルやレジストリファイルなどがあります。

システム修復情報はフロッピーディスクにも保存できますが、アプリケーションのインストルなどでレジストリが大きくなった場合、1枚のフロッピーディスクでは保存しきれなくなることがあります。
 この場合、修復ディスクは正しく作成されませんが、正しく作成されなかったことを報告するようなメッセージは表示されません。
 Windows NTでは、ハードディスクトにある修復情報を見て、システムの修復ができるの

Windows NTでは、ハードディスク上にある修復情報を見て、システムの修復ができるので、特に修復ディスクを作成する必要はありません。



システムの修復を行う場合に「Windows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」と 呼ばれるフロッピーディスクをセットするよ う要求される場合があります。ディスクは、 EXPRESSBUILDERの「マスターコントロー ルメニュー」の「ソフトウェアのセットアッ ブ]またはEXPRESSBUILDERからExpress ワークステーションを起動して、「ツール」メ ニューから作成することができます(すでに 作成している場合は、作成し直す必要はあり ません)。詳しくはソフトウェア編を参照し てください。



- 「システム修復情報の更新」はシステムに障害が発生し、起動しなくなったときにシステ ムが起動できるように復旧することを目的としています。「システム修復情報の更新」は システムのバックアップを目的としたものではありません。
 - 運用中にシステムやコンポーネントを変更した場合にも以下の手順で「システム修復情報の更新」を行ってください。
- 1. スタートメニューの[ファイル名を指定して実行]をクリックする。
- 2. [名前]ボックスに[rdisk.exe]と入力し、 [OK]ボタンをクリックする。

[修復ディスクユーティリティ]ダイアロ グボックスが表示されます。

3. [修復情報の更新]ボタンをクリックする。

「システムのインストール時またはこの ユーティリティの前回の実行時に保存さ れた修復情報は、削除されます。この操 作を続行しますか?」というメッセージが 表示されます。



- 【はい】ボタンをクリックする。
 「システム修復ディスクを作成します か?」というメッセージが表示されます。
- 5. [いいえ]ボタンをクリックする。
- 6. [終了]ボタンをクリックする。



4 管理ユーティリティのインストール

添付のCD-ROMFEXPRESSBUILDER」には、本装置監視用のFESMPRO/ServerAgent」、 およびExpressワークステーション・ワークステーション管理用のFESMPRO/ ServerManager」などが収録されています。これらのユーティリティは、 FEXPRESSBUILDERJCD-ROMからインストールすることができます。



詳細については、「ソフトウェア編」の「Express本体用バンドルソフトウェア」または装置に 添付されている別冊の説明書などを参照して使用環境に合った状態に設定してください。 また、ユーティリティには、ネットワーク上の管理PCにインストールするものもありま す。詳しくは第3編の「ソフトウェア編」を参照してください。



再セットアップを行ったときは、個別にインストールしてください。

5 システム情報のバックアップ

システムのセットアップが終了した後、オフライン保守ユーティリティを使って、システム 情報をバックアップすることをお勧めします。 システム情報のバックアップがないと、修理後にお客様の装置固有の情報や設定を復旧(リ ストア)できなくなります。次の手順に従ってバックアップをしてください。

- 1. 3.5インチフロッピーディスクを用意する。
- CD-ROM/EXPRESSBUILDERJをExpressワークステーションのCD-ROM/RWドライブにセットして、再起動する。
 EXPRESSBUILDERから起動して「EXPRESSBUILDERトップメニュー」が表示されます。
- 3. [ツール]ー[オフライン保守ユーティリティ]を選ぶ。
- システム情報の管理]から[退避]を選択する。
 以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進めてください。

再セットアップ

再セットアップとは、システムの破損などが原因でオペレーティングシステム(OS)を起動 できなくなった場合などに添付の「パックアップCD-ROM」を使ってハードディスクを出荷時 の状態に戻してシステムを起動できるようにするものです。



再セットアップをする前にシステムの修復を試してみてください。詳しくは「運用・保守編」 をご覧ください。

再 セット アップは 添 付 の C D - R O M [EXPRESSBUILDER]のメニューから起動します。 [シームレスセットアップ]をクリックすると、OS の再セットアップを開始します。

■● 再セットアップできるオペレーティングシ ステムはそれまで使用していたオペレー ティングシステムです(Windows 2000 かWindows NT 4.0のいずれか)。前回 と異なるオペレーティングシステムをイン ストールするには、別途オペレーティング システムを購入してください。



 ExpressワークステーションのBIOS設定でマザーボード上のLANコントローラのオ プションROMを展開できるように設定している場合は、これを無効にしてください。

[Advanced] – [Option ROM] – [On Board LAN] → [Disabled]

詳しくは「ハードウェア編」の「システムBIOS」を参照してください。

Windows 2000の再セットアップ~シームレスセットアップ~

EXPRESSBUILDERの「シームレスセット アップ」機能を使ってExpressワークステー ションをセットアップします。

「シームレスセットアップ」とは、ハードウェ アの内部的なパラメータや状態の設定から OS(Windows 2000・Windows NT 4.0)、 各種ユーティリティのインストールまでを添 付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使っ て切れ目なく(シームレスで)セットアップで きるExpress5800シリーズ独自のセット アップ方法です。ハードディスクを購入時の 状態と異なるパーティション設定で使用する 場合やOSを再インストールする場合は、 シームレスセットアップを使用してくださ い。煩雑なセットアップをこの機能が代わっ て行います。



導入編

シームレスセットアップは、セットアップを開始する前にセットアップに必要な情報を編集 しフロッピーディスクに保存し、セットアップの際にその情報を逐一読み出して自動的に一 連のセットアップを進めるというものです。このとき使用されるフロッピーディスクのこと を「セットアップパラメータFD」と呼びます。

- 「セットアップパラメータFD」とはシームレスセットアップの途中で設定・選択する情報が保存されたセットアップ用ディスクのことです。

シームレスセットアップは、この情報を元にしてすべてのセットアップを自動で行いま す。この間は、Expressワークステーションのそばにいて設定の状況を確認する必要は ありません。また、再インストールのときに前回使用したセットアップパラメータFD を使用すると、前回と同じ状態にExpressワークステーションをセットアップすること ができます。

- セットアップパラメータFDはEXPRESSBUILDERパッケージの中のブランクディスク をご利用ください。
- セットアップパラメータFDはEXPRESSBUILDERにある「ExpressPicnic[®]」を使って事前に作成しておくことができます。

事前に「セットアップパラメータFD」を作成しておくと、シームレスセットアップの間 に入力や選択しなければならない項目を省略することができます。(セットアップパラ メータFDにあるセットアップ情報は、シームレスセットアップの途中で作成・修正す ることもできます)。Expressワークステーションの他にWindows 95/98/Me、Windows NT 3.51以降またはWindows 2000で動作しているコンピュータがお手元にある場合は、 ExpressPicnicを利用してあらかじめセットアップ情報を編集しておくことをお勧めし ます。

ExpressPicnicを使ったセットアップパラメータFDの作成方法については、146ページ で説明しています。

OSのインストールについて

OSのインストールを始める前にここで説明する注意事項をよく読んでください。

本装置がサポートしているOSについて

本装置がサポートしているOSはMicrosoft® Windows® 2000 Professional 日本語版(以降、「Windows 2000」と呼ぶ)です。

Windows NT 4.0については、この後の項を参照してください。その他のOSをインストールするときはお買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

オプションの大容量記憶装置ドライバをインストールする場合

オプションの大容量記憶装置ドライバをインストールする場合は、149ページの「オプションの大容量記憶装置ドライバのインストール」を参照して、セットアップ情報ファイルを作成してください。

Windows 2000について

Windows 2000は、シームレスセットアップでインストールできます。ただし、次の点に ついて注意してください。



- インストールを始める前にオプションの増設やExpressワークステーション本体の セットアップ(BIOSやオプションボードの設定)をすべて完了させてください。
 - NECが提供している別売のソフトウェアパッケージにも、インストールに関する説明 書が添付されていますが、本装置へのインストールについては、本書の説明を参照して ください。
 - シームレスセットアップを完了した後に22ページを参照して「メモリダンプの設定」などの障害処理のための設定をしてください。

サービスパックについて

Service Packを使用する場合は、下記サイトより詳細情報をお確かめの上、ご使用ください。

Express5800[58番街]: http://express5800.com/

ミラー化されているボリュームへのインストールについて

[ディスクの管理]を使用してミラー化されているボリュームにインストールする場合は、インストールの実行前にミラー化を無効にして、ベーシックディスクに戻し、インストール完 了後に再度ミラー化してください。

ミラーボリュームの作成あるいはミラーボリュームの解除および削除は[コンピュータの管理]内の[ディスクの管理]から行えます。

MO装置の接続について

Windows 2000をインストールするときにMO装置を接続したまま作業を行うと、インストールに失敗することがあります。MO装置を外してインストールを最初からやり直してください。

ハードディスクの接続について

OSをインストールするハードディスクを接続しているSCSIコントローラ以外のSCSIコント ローラにハードディスクを接続する場合は、OSをインストールした後から行ってください。

作成するパーティションサイズについて

システムをインストールするパーティションの必要最小限のサイズは、次の計算式から求めることができます。

1000MB + ページングファイルサイズ + ダンプファイルサイズ

1000MB	= インストールに必要なサイズ
ページングファイルサイズ(推奨)	= 搭載メモリサイズ × 1.5
ダンプファイルサイズ	= 搭載メモリサイズ + 12MB

★● 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報(メモリダンプ)採取のために必要なサイズで す。ページングファイルサイズの初期サイズを「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ 情報(メモリダンプ)を採取できない場合があります。

例えば、搭載メモリサイズが512MBの場合、必要最小限のパーティションサイズは、前述 の計算方法から

 $1000MB + (512MB \times 1.5) + (512MB + 12MB) = 2292MB$

となります。



シームレスセットアップでインストールする場合、必要最小限のパーティションサイズは以 下のように計算してください。

- Windows 2000 Service Packを適用しない場合
 「前述の必要最小限のパーティションサイズ」もしくは「2000MB」のうち、どちらか大きい方
- Windows 2000 Service Packを適用する場合
 「前述の必要最小限のパーティションサイズ + 850MB」もしくは「4095MB」のうち、どちらか大きい方

ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクへの再インストールについて

ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクの既存のパーティションを残したままでの再インストールはできません。

既存のパーティションを残したい場合は、CD-ROM[EXPRESSBUILDER]に格納されてい るオンラインドキュメント[Microsoft Windows 2000 Professionalインストレーションサ プリメントガイド]を参照して再インストールしてください。

インストレーションサプリメントガイドにもダイナミックディスクへのインストールに関す る注意事項が記載されています。

<u>ディスク構成について(「MAINTE_P」と表示されている領域について)</u>

ディスク領域に、「MAINTE_P」と表示された領域が存在する場合があります。



セットアップの流れ

シームレスセットアップで行うセットアップの流れを図に示します。



 ※1 ディスクアレイコントローラ/ディスクミラーリングコントローラが搭載されていて、セットアップパラメータファイルで 「RAIDの新規作成」がチェックされている場合のみ、この処理が実行される。
 ※2 OSの選択で [その他] を選択したときはここで終了する。

セットアップの手順

重要

次にシームレスセットアップを使ったセットアップの手順を説明します。 セットアップパラメータFDを準備してください。事前に設定したセットアップパラメータ FDがない場合でもインストールはできますが、その場合でもMS-DOS 1.44MBフォーマッ ト済みのフロッピーディスクが1枚必要となります。セットアップパラメータFDは EXPRESSBUILDERパッケージの中のブランクディスクを使用するか、お客様でフロッピー ディスクを1枚用意してください。

- ┏-〇 システムの構成を変更した場合は「システムのアップデート」を行ってください。
 - Windows 2000の起動後にグラフィックアクセラレータドライバやネットワークアダ プタなどのドライバの変更、または追加する場合は、オンラインドキュメントの 「Microsoft Windows 2000インストレーションサプリメントガイド」を参照してく ださい。
- 1. 周辺装置、Expressワークステーションの順に電源をONにする。
- ExpressワークステーションのCD-ROM/RWドライブにCD-ROM[EXPRESSBUILDER]をセットする。
- CD-ROMをセットしたら、リセットする(<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押す)か、電源を OFF/ONしてExpressワークステーションを再起動する。

CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。

4. Expressワークステーションで使用する キーボードを選択する。

EXPRESSBUILDERを初めて起動する と、キーボードの選択メニューが現れま す。このメニューは、1度設定を行うと 以降は表示されません。

しばらくすると「EXPRESSBUILDER トップメニュー」が表示されます。

[シームレスセットアップ]をクリックする。

「お願い」が表示されます。



【キーボード選択】 日本語キーボード(標準) 英語キーボード

Express5800シリーズ EXPRESSBUILDER Ver3.xxx-x Copyright(C) NEC Corporation 2002

6. 記載内容をよく読んでから[確認]ボタン をクリックする。

「セットアップパラメータFDを挿入して ください。」というメッセージが表示され ます。

 マットアップパラメータFD」をフロッ ピーディスクドライブにセットし、 [確認]ボタンをクリックする。





「セットアップパラメータFD」をお持ちでない場合でも、1.44MBのフォーマット済みフロッ ピーディスク(ブランクディスク)をフロッピーディスクドライブにセットし、[確認]ボタンを クリックしてください。

[設定済のセットアップパラメータFDをセットした場合]

セットした「セットアップパラメータFD」内のセットアップ情報ファイルが表示されます。

 インストールに使用するセットアップ情報ファイル 名を選択する。



選択されたセットアップ情報ファイルに修正でき ないような問題がある場合(たとえば ExpressPicnic Ver.3以前で作成される「Picnic-FD」をセットしているときなど)、再度「セットアッ プパラメータFD」のセットを要求するメッセージが 表示されます。セットしたフロッピーディスクを 確認してください。

情報ファイル選択/入力	
ファイル名:(A)	
test.tre	確定
test2.tre	反る
test3.tre	再読込
	▼

セットアップ情報ファイルを指定すると、「セットアップ情報ファイルのパラメータの確認、 修正を行いますか」というメッセージが表示されます。

② 確認する場合は[確認]ボタンを、確認せずにそのままインストールを行う場合は、[スキップ]ボタンをクリックする。

[確認]ボタンをクリック→手順8へ進む [スキップ]ボタンをクリック→手順9へ進む

[ブランクディスクをセットした場合]

 [ファイル名:(A)]の下にあるボックス部分をクリック するか、<A>キーを押す。

入力ボックスが表示されます。

2 ファイル名を入力する。

[オペレーティングシステムインストールメニュー] が表示されます。リストには、装置がサポートして いるOSが表示されます。

③ リストボックスからインストールす る[Windows 2000]を選択する。





8. OSのインストール中に設定する内容を確認する。

Expressワークステーション本体にディ スクミラーリングコントローラボードが 搭載されている場合は、[アレイディスク の設定]画面が表示されます。設定内容を 確認し、必要なら修正を行ってから[次 へ]ボタンをクリックしてください。

【アレディスかの設定】PROMISE ディスポシージッグ ンパレーク アレディスかの設定 する RAID の作成 既存 RAID を使用する 接続ディスかのトーが数 ... ル ックを構成する RAID ... シックを構成する RAID ... ライトモトドの創業 ... 再読込 次 へ、 「ゆア"

次に、[NEC基本情報]画面が表示されま す。設定内容を確認し、必要なら修正を 行ってから[次へ]ボタンをクリックして ください(画面中の[対象マシン」は機種に よって表示が異なります。)

以降、画面に表示される[次へ]、[戻る]、 [ヘレプ]ボタンをクリックして設定を確認 しながら画面を進めてください。設定内 容は必要に応じて修正してください。

INCOV	Expressbouu/xxx
Sの種類	Windows 2000 Professional
ーティションの使用方法	新規に作成する
-ティションサイズ(4095MB~,全領域=*)	4095
ィルシステムの NTFSへのコンパート	する
-ビスバックの適用	する
/ストールバス	WINNT

ਰਾ

- OSをインストールするパーティションは、必要最小限以上のサイズで確保してください。
- 「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択すると、最初のパー ティション(保守用パーティションを除く)の情報はフォーマットされ、すべてなくなりま す。それ以外のパーティションの情報は保持されます。下図は、保守用パーティションが用 意されている場合に情報が削除されるパーティションを示しています。

第1パ-	ティション	第2パーティション	第3パーティション	第4パーティション
<保守用	パーティション>			
	保持	削除	保持	保持

- ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクの既存のパーティションを残したまま再インストールすることはできません(32ページ参照)。「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択しないでください。
- 「パーティションの使用方法」で「新規に作成する」を選択したとき、「パーティション」の設 定値は実領域以上の値を指定しないでください。
- 「パーティション」に2000MB以外を指定した場合はNTFSへのコンバートが必要です。
- ●「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択したとき、流用するパーティション以外(保守領域を除く)にパーティションが存在しなかった場合、そのディスクの最大領域を確保してWindows 2000をインストールします。
- 設定内容に不正がある場合は、次の画面には進めません。

<次ページへ続く>

ਰਾ

- 前画面での設定内容との関係でエラーとなり、前画面に戻って修正し直さなければならない 場合もあります。
- セットアップの途中で、Windows 2000をインストールするパーティションを設定する 画面が表示されます。このとき表示される先頭にある16MBの領域は、Express5800シ リーズ特有の構成情報や専用のユーティリティを保存するために使用されるパーティション です。この領域の削除は推奨しませんが、16MBの領域を確保させたくない場合は、マ ニュアルセットアップでインストールを行ってください。シームレスセットアップでは削除 できません。

- [NEC基本情報] 画面にある[再読込] ボタンをクリックすると、セットアップ情報ファイルの選択画面に戻ります。[再読込] ボタンは、[NEC基本情報] 画面にのみあります。
- [コンピュータの役割] 画面にある[終了] ボタンをクリックすると、その後の設定はシーム レスセットアップの既定値を自動的に選択して、インストールを行います。

設定を完了すると自動的に再起動します。

 オプションの大容量記憶装置ドライバの モジュールをコピーする。

オプションの大容量記憶装置ドライバを インストールする場合は、大容量記憶装 置に添付されているフロッピーディスク をフロッピーディスクドライブにセット し、メッセージに従って操作してくださ い。

 追加するアプリケーションをインストー ルする。

> シームレスセットアップに対応している アプリケーションを追加でインストール する場合は、メッセージが表示されま す。

「大容量記憶装置用OEM-FD」をフロッビーディスク ドライブに挿入してください。
OK 終了

追加するアプリケーションのインストール 媒体をCD-ROMまたはフロッビーディスク ドライブに挿入してください。
OK 終了

 メッセージに従ってCD-ROM/EXPRESSBUILDER」とセットアップパラメータFDをCD-ROM/ RWドライブとフロッピーディスクドライブから取り出し、Windows バックアップCD-ROMを CD-ROM/RWドライブにセットする。

[ソフトウェア使用許諾契約]画面が表示されます。

 よく読んでから、同意する場合は、[同意します]ボタンをクリックするか、<F8> キーを押す。同意しない場合は、[同意しません]ボタンをクリックするか、<F3> キーを押す。

PageDown	キを使ってスクロールしてくださ	さ しい。	
-			
			 -
			 -
Windows	000のうかれに同音されま	すか?	
[同章].=:	もしを選ぶとセットアップを中	よう · 止します。	
114125 0 6			

導入這

∎ਾ0 ≣ੋੋੋੋੋ

同意しないと、セットアップは終了し、Windows 2000はインストールされません。

- 13. NEC基本情報で「サービスパックの適用」を[する]にした場合は、次の操作をする。
 - ① メッセージに従ってセットアップパラメータFDをフロッピーディスクドライブから取り出し、バックアップCD-ROMをCD-ROM/RWドライブから取り出す。
 - メッセージに従ってWindows 2000 Service PackのCD-ROMをCD-ROM/RWドライブに セットする。

Windows 2000と指定したアプリケーションは自動的にインストールされ、システムにログオンします。

- 14. 15ページを参照し、デバイスドライバ(本体標準装備)のセットアップを行う。
- 15. オプションのデバイスでドライバをインストールしていないものがある場合は、オプションに添 付の説明書を参照してドライバをインストールする。
- 16. 22ページの「障害処理のためのセットアップ」を参照してセットアップをする。
- 17. 28ページを参照してシステム情報のバックアップをとる。

以上でシームレスセットアップを使ったセットアップは完了です。

Windows NT 4.0の再セットアップ~シームレスセットアップ~

Windows NT Workstation 4.0 日本語版(Windows NT 4.0)はシームレスセットアップで すべてインストールできます。ただし、次の点に注意してください。 「シームレスセットアップ」に関する説明やヒントは29ページを参照してください。

OSのインストールについて

OSのインストールを始める前にここで説明する注意事項をよく読んでください。

本装置がサポートしているOSについて

本装置がサポートしているOSはMicrosoft® Windows NT® Workstation 4.0 日本語版(以降、「Windows NT 4.0」と呼ぶ)です。

Windows 2000については、この前の項を参照してください。その他のOSをインストール するときはお買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

オプションの大容量記憶装置ドライバをインストールする場合

オプションの大容量記憶装置ドライバをインストールする場合は、149ページの「オプションの大容量記憶装置ドライバのインストール」を参照して、セットアップ情報ファイルを作成してください。

Windows NT 4.0について

Windows NT Workstation 4.0 日本語版(Windows NT 4.0)は、シームレスセットアップですべてインストールできます。ただし、次の点について注意してください。

- O インストールを始める前にオプションの増設やExpressワークステーション本体の 置要 セットアップ(BIOSやオプションボードの設定)をすべて完了させてください。
 - NECが提供している別売のソフトウェアパッケージにも、インストールに関する説明 書が添付されていますが、本装置へのインストールについては、本書の説明を参照して ください。
 - Service Packについて

シームレスセットアップでは「Service Pack 5」以降を適用することができます。 Service Pack 5より前のバージョンを適用したい場合は、セットアップ情報ファイ ルの作成時に「サービスパックの適用」の項目で「しない」を選択してセットアップを行 い、Windows NT 4.0の起動後に、21ページを参照して「システムのアップデート」 を行ってください。(装置に添付されていないService Packを適用する場合は、お客 様でCD-ROMを用意してください。)

- シームレスセットアップを完了した後に22ページを参照して「メモリダンプの設定」などの障害処理のための設定をしてください。
- 複数枚ネットワークアダプタを装着している場合、アダプタごとのIPアドレスは、OS の起動後に設定してください。

<u>サービスパックについて</u>

Service Packを使用する場合は、下記サイトより詳細情報をお確かめの上、ご使用ください。

Express5800[58番街]:http://express5800.com/

MO装置について

インストール時にMO装置を接続したままファイルシステムをNTFSに設定すると、ファイ ルシステムが正しく変換されません。MO装置を外してインストールを最初からやり直して ください。

搭載メモリについて

3GBを超えるメモリを搭載したExpress5800にはWindows NT 4.0をインストールできません。

いったんメモリを取り外して3GB以下にしてからインストールしてください。

搭載しているメモリの容量は電源をONにした後、画面に表示されるメモリチェックのカウンタなどで確認してください。

<u>ディスク構成について</u>

■「EISAユーティリティ」と表示された領域について

ディスク領域に、「EISAユーティリティ」という領域が表示される場合があります。 構成情報やユーティリティを保存するための保守用パーティションです。削除しない でください。

※ディスク アトシニストレータ パーティジョン(2) ツール(1) 表示(1) オフジョン(2) ヘルフ*(1) □ × パーティジョン(2) ペルフ*(1)	
■ す*42 0 B す*42 0 B す*42 0 B 5 *42 0 B 5 *42 0 E ISA 2-ディリティ I E ISA 2-ディー I E ISA 2- I E ISA	構成情報やユーティリティを保存 するための保守用パーティション です。削除しないでください。
CD-ROM 0 E:	 2つ目のパーティション 存在しない場合もあります。存在 する場合は、削除しても問題あり ません。
■ 7°ライマリ パーティション	

■ その他

- OSをインストールするハードディスクを接続しているSCSIコントローラ以外の SCSIコントローラにハードディスクを接続する場合は、OSをインストールした 後から行ってください。
- ディスクアドミニストレータを使用してミラー化されているパーティションにインストールする場合は、インストールの実行前にミラー化を無効にして、インスール完了後に再度ミラー化してください。



ミラー化あるいはミラーの解除は、ディスクアドミニストレータの[フォールト トレランス]メニューから行えます。 導入編

ルータを越えたプライマリドメインコントローラのバックアップドメインコント
 ローラを作成する場合は、シームレスセットアップではなくマニュアルセット
 アップでインストールしてください。

作成するパーティションサイズについて

システムをインストールするパーティションの必要最小限のサイズは、次の計算式から求めることができます。

200MB + ページングファイルサイズ + ダンプファイルサイズ 200MB = インストールに必要なサイズ ページングファイルサイズ(推奨) = 搭載メモリサイズ + 12MB ダンプファイルサイズ(推奨) = 搭載メモリサイズ + 12MB

例えば、搭載メモリサイズが512MBの場合、必要最小限のパーティションサイズは、上記 の計算方法から

200MB + (512MB + 12MB) + (512MB + 12MB) = 1248MB となります。

セットアップの流れ

シームレスセットアップで行うセットアップの流れを図に示します。



- ※3 オプションのグラフィックスアクセラレータボードを搭載しているときのみ。
- ※4 インストール中にUpdate媒体の適用を指定したときのみ。

セットアップの手順

次にシームレスセットアップを使ったセットアップの手順を説明します。 セットアップパラメータFDを準備してください。事前に設定したセットアップパラメータ FDがない場合でもインストールはできますが、その場合でもMS-DOS 1.44MBフォーマッ ト済みのフロッピーディスクが1枚必要となります。セットアップパラメータFDは EXPRESSBUILDERパッケージの中のブランクディスクを使用するか、お客様でフロッピー ディスクを1枚用意してください。

┳-〇 ● Windows NT 4.0をインストールする場合について

重要

- システムの構成を変更した場合は「システムのアップデート」を行ってください。
- Windows NT 4.0の起動後にグラフィックスアクセラレータドライバやネット ワークアダプタドライバの変更または追加する場合は、18ページを参照してくだ さい。
- Service Packについて

シームレスセットアップでは「Service Pack 5」以降を適用することができます。 Service Pack 5より前のバージョンを適用したい場合は、セットアップ情報ファ イルの作成時に「サービスパックの適用」の項目で「しない」を選択してセットアップ を行い、Windows NT 4.0の起動後に、21ページを参照して「システムのアップ デート」を行ってください。(装置に添付されていないService Packを適用する場 合は、お客様でCD-ROMを用意してください。)

- 1. 周辺装置、Expressワークステーションの順に電源をONにする。
- ExpressワークステーションのCD-ROM/RWドライブにCD-ROM[EXPRESSBUILDER]をセットする。
- CD-ROMをセットしたら、リセットする(<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押す)か、電源を OFF/ONしてExpressワークステーションを再起動する。

CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。

4. Expressワークステーションで使用する キーボードを選択する。

EXPRESSBUILDERを初めて起動する と、キーボードの選択メニューが現れま す。このメニューは、1度設定を行うと 以降は表示されません。

しばらくすると「EXPRESSBUILDER トップメニュー」が表示されます。

[シームレスセットアップ]をクリックする。

「お願い」が表示されます。





6. 記載内容をよく読んでから[確認]ボタン をクリックする。

「セットアップパラメータFDを挿入して ください。」というメッセージが表示され ます。



7. 「セットアップパラメータFD」をフロッピーディスクドライブにセットし、[確認]ボタンをクリッ クする。



「セットアップパラメータFD」をお持ちでない場合でも、空の1.44MBのフォーマット済みフ ロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、[確認]ボタンをクリックしてく ださい。

[設定済のセットアップパラメータFDをセットした場合]

セットした「セットアップパラメータFD」内のセットアップ情報ファイルが表示されます。

 インストールに使用するセットアップ情報ファイル 名を選択する。

チェック

選択されたセットアップ情報ファイルに修正でき ないような問題がある場合(たとえば ExpressPicnic Ver.3以前で作成される「Picnic-FD」をセットしているときなど)、再度「セットアッ プパラメータFD」のセットを要求するメッセージが 表示されます。セットしたフロッピーディスクを 確認してください。

情報ファイル選択/入力	
ファイル名:(A)	
test.tre	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
test2.tre test3.tre	反る
	再読込

導入編

セットアップ情報ファイルを指定すると、「セットアップ情報ファイルのパラメータの確認、 修正を行いますか」というメッセージが表示されます。

② 確認する場合は[確認]ボタンを、確認せずにそのままインストールを行う場合は、[スキップ]ボタンをクリックする。

[確認]ボタンをクリック→手順8へ進む [スキップ]ボタンをクリック→手順9へ進む

[ブランクディスクをセットした場合]

 [ファイル名:(A)]の下にあるボックス部分をクリック するか、<A>キーを押す。

入力ボックスが表示されます。

 ファイル名を入力する。
 [オペレーティングシステムインストールメニュー] が表示されます。



45

 リストボックスから[WindowsNT] を選択する。

Express5800シリーズ EXPRESSBUILDER Ver3.xxx=	x Copyright(C) NEC Corporation 2002
オペレーティングシステムインストールメニュー Windows 2000 Windows NT NetWare Other 戻る	【作業手順】 → セッドカップ (確認 ディスカ/ロンクゲレッション 者種にライガスのクパント) ジスロングゲレッショ ド・ライジョンの下作成 ド・ライジョンの下作成 ド・ライジョンの下でか NECEY コー体の文: - OS CD-ROMの文: - 自動たッドカップ の開始

OSのインストール中に設定する内容を確認する。

Expressワークステーション本体にディ スクミラーリングコントローラボードが 搭載されている場合は、[アレイディスク の設定]画面が表示されます。設定内容を 確認し、必要なら修正を行ってから[次 へ]ボタンをクリックしてください。

[アレイディスウの設定] PROMISE ディスクミラ	~9%*5%¤-9
アレイディヌクの設定	する
RAIDの作成	既存 RAID を使用する
接続ディスクのトータル数	
パックを構成するディスク数	
パックを構成する RAID	
ライトモードの設定	
ライトモードの種類	
	■読込 次へ 107°

次に、[NEC基本情報]画面が表示されま す。設定内容を確認し、必要なら修正を 行ってから[次へ]ボタンをクリックして ください。以降、画面に表示される[次 へ]、[戻る]、[ヘルプ]ボタンをクリックし て設定を確認しながら画面を進めてくだ さい(画面中の「対象マシン」は機種によっ て表示が異なります)。設定内容は必要に 応じて修正してください。

対象マシン	Express5800/xxx
OS の種類	WindowsNT4.0 Workstation
パーティションの使用方法	新規に作成する
ハ* ーディションサイス*	4095
ファイルシステムの NTFS へのコンバート	する
サービスバックの適用	する
1)7F-111.2	WINNT

₩O IIII

- OSをインストールするパーティションは必要最小限以上のサイズを確保してください。
- 「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択すると、最初のパー ティション(保守用パーティションを除く)の情報はフォーマットされ、すべてなくなりま す。それ以外のパーティションの情報は保持されます。下図は、保守用パーティションが用 意されている場合に情報が削除されるパーティションを示しています。

第1パーティション	第2パーティション	第3パーティション	第4パーティション
<保守用パーティション>			
保持	削除	保持	保持

- 設定内容に不正がある場合は、次の画面には進めません。
- 前画面での設定内容との関係でエラーとなり、前画面に戻って修正し直さなければならない 場合もあります。
- 4GBを超えるパーティションサイズを指定したとき、「Service Pack 5」以降は必須で す。この場合、Windows NTを起動後もアンインストールできません。また、【ユーザ情 報】画面の[会社名]は必ず入力してください。

- [NEC基本情報] 画面にある[再読込] ボタンをクリックすると、セットアップ情報ファイルの選択画面に戻ります。[再読込] ボタンは、[NEC基本情報] 画面にのみあります。
- [コンピュータの役割] 画面にある[終了] ボタンをクリックすると、その後の設定はシーム レスセットアップの既定値を自動的に選択して、インストールを行います。

設定を完了すると自動的に再起動します。

9. ディスクアレイシステムを構築する。

手順8の[アレイディスクの設定]画面で設定した内容に従ってディスクアレイシステムを構築します。ディスクアレイコントローラボードを検出できなかったときや、ディスクアレイシステムを構築する設定をしなかったときは、次のステップへ進みます。

ディスクアレイシステムは次の手順で自動的に構築されます。

- ① RAIDレベルを自動で設定します。
- ② システムドライブを初期化します。

ਰਾ ਦੇ ਇ

オート設定(RAIDレベルの自動設定)では、SCSIデータ転送パラメータを設定しません。変更 する必要があるときは、「ツール」の「ディスクアレイのコンフィグレーション」で設定してくだ さい。

10. 保守用パーティションを作成する。

保守用パーティションは次の手順で自動的に作成されます。



すでに保守用パーティションが存在する場合、保守用パーティションの作成はスキップします。

- ① 保守用パーティションを作成します。終了後、自動的に再起動します。
- ② 保守用パーティションをフォーマットします。
- ③ 保守用の各種ユーティリティをインストールします。終了後、自動的に再起動します。

<手順7[ブランクディスクをセットした場合]の③で[その他]を選択した場合は以上でシームレス セットアップを終了します。以降は、「オンラインドキュメント」を参照してオペレーティングシ ステムをインストールしてください。

11. OS領域を作成する。

OS領域は次の手順で自動的に作成されます。

① OS用のパーティションを作成します。終了後、自動的に再起動します。

[NEC基本情報] 画面の「パーティションの使用方法」メニューで「既存パーティションを使用する」を選択していた場合、パーティションの作成は行いません。

② OS用パーティションをフォーマットします。

 グラフィックスアクセラレータのモ ジュールをコピーする。

> グラフィックスアクセラレータボードに 添付されているインストールディスク(フ ロッピーディスク、あるいはCD-ROM) をフロッピーディスクドライブ、あるい はCD-ROM/RWドライブにセットし、 メッセージに従って操作してください。



- [グラフィックスアクセラレータボード名]に「標準VGA」を選択した場合は、スキップされ ます。
- オプションのグラフィックスアクセラレータボードを接続していない時はスキップされます。
- 13. オプションの大容量記憶装置ドライバの モジュールをコピーする。

オプションの大容量記憶装置ドライバを インストールする場合は、大容量記憶装 置に添付されているフロッピーディスク をフロッピーディスクドライブにセット し、メッセージに従って操作してくださ い。



14. Update媒体のモジュールをコピーする。

メッセージに従ってインストールするUpdate媒体をフロッピーディスクドライブに挿入してください。

[Update媒体の適用]で「しない」を選択した場合は、スキップされます。

チェック

「Update媒体」とは、弊社がWebなどから発行する不具合解消用のフロッピーディスクのことです。適用すべき媒体がありましたら、予防保守のため適用してください。なければ必要ありません。

 追加するアプリケーションをインストー ルする。

> シームレスセットアップに対応している アプリケーションを追加でインストール する場合は、メッセージが表示されま す。



16. メッセージに従ってCD-ROMFEXPRESSBUILDERJをCD-ROM/RWドライブから取り出し、 WindowsバックアップCD-ROMをCD-ROM/RWドライブにセットする。

[ソフトウェア使用許諾契約]画面が表示されます。

よく読んでから、同意する場合は、[同意します]ボタンを、同意しない場合は、
 [同意しません]ボタンをクリックする。

同意しないと、セットアップは終了 し、Windows NT 4.0はインストー ルされません。

次の使用許諾契約をお読みください。PageDown キーを使ってパロールしてください。
使用許諾契約に同意されますか? (同意しません) を選ぶともがっか を中止します。 Windows NT をイルト・りするには、この契約への同意が必要です。
同意します 同意しません

- **18.** メッセージに従ってセットアップパラメータFDをフロッピーディスクドライブから取り出し、 Windows バックアップCD-ROMをCD-ROM/RWドライブから取り出す。
- **19.** Service Pack 5以降のインストールを行う指定をしている場合は、メッセージに従って指定した バージョンのService Pack CD-ROMをCD-ROM/RWドライブにセットする。

Windows NT 4.0と指定したアプリケーションは自動的にインストールされ、システムにログオンします。



Windows NT 4.0 へはローカルのadministratorとしてログオンします。バックアップドメインコントローラの場合は、自動的にログオンしません。

- 20. 15ページを参照し、デバイスドライバ(本体標準装備)のセットアップを行う。
- 21. オプションのデバイスでドライバをインストールしていないものがある場合は、オプションに添 付の説明書を参照してドライバをインストールする。
- 22. 22ページの「障害処理のためのセットアップ」を参照してセットアップをする。
- 23. 28ページを参照してシステム情報のバックアップをとる。

以上でシームレスセットアップを使ったセットアップは完了です。

 \sim Memo \sim